

[講演要旨] 1605 年慶長地震は南海トラフの地震か？

公益財団法人地震予知総合研究振興会 松浦 律子

Is 1605 Keicho Earthquake really one of Megathrust Earthquakes along Nankai Trough?

Ritsuko S. MATSU'URA (ADEP)

§ 1. はじめに

今村(1933)以来, Ando(1975)から地震調査研究推進本部(2013)に至るまで, 1605 年(慶長九年)慶長地震は「南海トラフの大地震」とされてきた. 但し震度の点で安政や宝永とは異なり, 殆ど揺れていないことは今村(1943)の昔から明らかだった. そこで慶長九年地震は南海トラフの津波地震であるとされている(e.g. 石橋, 1978). また東日本震災後は, 南海トラフでも従来より大きい津波や震度の想定が大流行し, 駿河湾から日向灘沖までの震源域の“連動”などかまびすしい.

最近の宝永地震の検討[e.g. 松浦(2012), 松浦ほか(2012)]からは, 宝永は単なる安政の二地震が同時に発生した訳では無く, 最初から南海トラフ全体の歪エネルギーを解放する地震として発生しており, 安政の東海・南海両地震が単に連動したのではないこと, 安政と異なり浜松以東での沿岸部の隆起の根拠はないことが明らかになった. また, Noda et al.(2013)によれば, 最

近の GPS データから各プレートの剛体運動を抽出すると, 既に伊豆半島は力学的に本州とほぼ一体化しており, 本州と PHS プレートとの境界は伊豆半島の沖合の銭洲あたりになっていることが判った. 地質的時間スケールで考えれば, 大正関東地震も想定東海地震も“プレート内地震”ということになる. また, 明応地震が銭洲の新しいプレート境界で発生したということもテクトニクスに十分考えられることである. そこで, もう一度慶長九年の地震を考えてみることにする.

§ 2. A 級史料による慶長地震の地震像

下図は Ishibashi(2004)に, 銭洲が力学的プレート境界であり, 駿河湾は偶にお付き合いする昔の古傷という視点を加えて白鳳以来の南海トラフ沿いの地震の震源域範囲を整理したものである. 実線は確実, 破線は可能性がある, 点線は津波地震を示す. 私は安政東海地震の震源域が駿河湾入り口はともかく奥まで至ったかは疑問を持っているので, 御前崎～駿河湾という表現にした. 昭和の二地震は安政に比較すれば規模が小さく, 特に東南海地震は, 古代・中世に発生した場合には史料から今日我々が察知できなかった可能性もある. この表で慶長と昭和とを仲間はずれとして見れば, 南海トラフ沿いの巨大地震は, 684 年以来, 略 200 年に 1 回程度発生してきたというのが素直なまとめではないだろうか.

銭洲で発生した可能性が高い明応地震は正平からやや早めに発生し, 規模最大であった宝永地震の後の安政二地震も早めに発生した類いであるが, 足摺や御前崎の隆起の違いからは, 「宝永の後始末」の地震だった可能性が高い. また, 慶長が無理矢理津波地震として加えられて来たのは, 地球物理的妥当性より, 「百年に 1 回」発生してきたという溝付された思考に都合のいい候補がこれしかなかったからではないだろうか?

津波に関して A 級史料のある地点は少ないが[e.g. 山本(1995)]大きい被害が伝承されている地点は大きい津波だった宝永地震とも異なる. 慶長九年地震は遠地あるいは明応よりさらに南海トラフから離れた場所に発生した可能性を考えるべきであり, 安易に「南海トラフの地震」と決めつけることは, 慎むべきである.

年	名称	高知沖	紀伊水道沖	熊野灘沖	浜名湖沖	銭洲	御前崎～駿河湾	年
684	白鳳	——	——	——	——	——	——	
887	仁和	——	——	——	——	——	——	
1099	康和	——	——	——	——	——	——	1096
1361	正平	——	——	——	——	——	——	
1498	明応	——	——	——	——	——	——	
1605	慶長	.....?	.....	.....	.....	.....	.....	
1707	宝永	——	——	——	——	——	——	
1854	安政	——	——	——	——	——	——	
1946	昭和	——	——	——	——	——	——	1944
現在								

図1. 過去の南海トラフの巨大地震の震源域範囲